

(開始時刻 18:00)

○大西座長 少し遅れて大臣が見えるということですが、定刻になりましたので、ただいまから第2回「フロンティア分科会」を開催させていただきます。

本日は、総理は公務により御欠席です。また、柳川委員と隠岐委員が御欠席です。

本日の進行については、各部会の部会長もしくは部会長代理の皆様から部会での御議論の進捗状況について、順次御報告をいただき、その後、意見交換をしていただきます。

それでは、順番にまず、繁栄のフロンティア部会についてご報告お願いいたします。

○武田委員 繁栄のフロンティア部会の進捗状況を御報告申し上げます。

「1. これまでの審議状況」ですが、繁栄のフロンティア部会は2回開催しております。

第1回は2月15日に開催いたしまして、冒頭に部会長より部会の進め方について御説明をいただき、その後、御出席いただいた全委員より自己紹介を兼ねて、一言ずつ繁栄についての御意見を頂戴いたしました。

2月23日に開催しました第2回では、部会長から部会で議論をするポイントのアジェンダを御説明いただき、それについて委員の皆様改めて御意見を伺いました。また、2名の委員の方にプレゼンテーションをお願いいたしまして、部会ではその内容を踏まえた意見交換も行いました。部会長の多大な御尽力並びに各委員の皆様の御協力によりまして、繁栄のフロンティア部会では大変活発かつ建設的な議論がなされていると感じております。

「2. 部会における主な論点」ですが、委員の皆様は多様なバックグラウンドをお持ちで、多様な角度から貴重な御意見をいただいておりますけれども、おおむね方向性としては合意できているのではないかと感じております。まとめますと3つの論点がございます。

第1の論点は人材でございます。お手元の資料では「フロンティア人材の開発」とございます。大きくは2つの視点がございます。

1つ目は人口減少社会にもかかわらず、現在活用し切れていない労働力を最大限活用するという労働力の裾野拡充の視点でございます。

2つ目は産業構造の変化に合わせた教育、あるいは技能習得といった質の向上の視点です。具体的には括弧書きにございますとおり、柔軟な能力開発体制。特に委員の意見として、やり直しがきく体制という御意見を数多くいただきました。そのほか、高齢者がライフステージに合わせて活躍できるような人材開発体制や新たな就労機会の提供、更には若年層、女性の技能習得と活用。また、キーワードとしてグローバル化、国際的に活躍できる人材の育成などが意見として挙げられております。

2つ目の論点は経済の活性化と成長の促進です。これは十分条件ではないものの、成長なくして繁栄はあり得ないという点では、委員の考え方の方向性としておおむね一致しております。具体的に活性化すべき分野あるいは活性化する方法につきましては、今後議論を部会にて深めていくことになると思いますが、現時点では、例えば医療やインフラなどシステムの輸出、規制緩和による新規参入の促進、成長分野に資金が回るような金融の仕組みづくり、更には、海外からの有能な人材の受け入れ、サービス産業の生産性向上といったご意見をいただいております。

3つ目の論点は、内外のヒト・モノ・カネを引き付ける日本の地域づくりです。地方の魅力を

どのようにして高めるかという課題に対しては、例えば海外と地域が直接つながる仕組みや産業づくり。また、その産業の一つとして農業の発展も鍵になるとの意見を頂いております。

以上、3点が繁栄のフロンティア部会において主な方向性として議論されている点です。

続いて「3. 今後の議論の方向性」に話を進めさせていただきたいと思います。部会長から2点、フロンティア分科会全体の議論の柱になり得る論点をお示し頂きましたので、この場をかりてご紹介させていただきます。

1つ目は「未来世代を主人公に」という点。2つ目は「国際的課題に貢献できる日本に」という点です。この2点については、これから具体的な方向性や政策の在り方について、繁栄のフロンティア部会でも議論を深めていくことになると思います。

また、繁栄フロンティアでは、ビジョンを実現していくプロセスや方法について、多くの委員から御指摘をいただいている点がございますので、ご紹介させていただきます。

1点目は、現実の直視という点です。将来世代の心に響き、歴史に残るビジョンとするには、単なるばら色の未来の提示を目的化するのではなく、現実の困難と正面から向き合っ、その解決策を提示することが重要ではないかという趣旨のご意見を多数の委員からいただいております。

2点目としましては、政策面のみならず、意識改革あるいはマインドセットの変革の必要性を多くの委員が主張されております。繁栄を実現するために必要な意識改革やマインドセットの変革というのは、具体的にどのような手段で、あるいはどのような形で提示していくことが望ましいのか。今後、部会において委員の皆様にも更に御意見をお伺いし、議論を深めてまいりたいと考えております。

最後に「4. 今後の予定」ですが、第3回、第4回を3月中に予定しております。それぞれ1、2名の委員からのプレゼンテーションを予定しており、その内容を踏まえて意見交換を行う予定です。第5回以降は中間報告に向けて、より踏み込んだ議論にしていきたいと思います。私の方からは、以上です。

○大西座長 どうもありがとうございました。

それでは、次に幸福のフロンティア部会についてお願いいたします。

○阿部委員 これまでの幸福部会における議論と論点の報告について、御報告いたします。

「1. これまでの審議状況」ですが、これまでで3回部会を開催いたしました。幸福部会の方針としましては、なるべく早い時期で委員からのプレゼンテーションを終え、残りを報告書の議論に費やしたいと思っておりますので、3回までに2名を除き、すべての方のプレゼンテーションを終えております。第4回が3月19日に開催となっておりますけれども、前半1時間が委員からのプレゼンテーションで、残りは中間報告のとりまとめに向けた議論に入りたいと思っております。

また、部会長、部会長代理で、各委員のヒアリングを別個行っております。各委員について約2時間じっくりお話を伺わせていただく機会を設けまして、よりインフォーマルな場での議論を奨励していこうと思っております。非常に実り多いヒアリングを行っております。

「2 部会における主な論点」を御説明させていただきます。ペーパーにはキーワードのみ書きましたが、それに肉づけする形で御説明いたします。出発点として、私どもの部会は幸福部会

と名づけられておりますが、一体何を指すのかというところで、Happiness という意味での幸福なのか。Hope という希望なのか。または日本語に訳すのは難しいのですが古川大臣が一番最初にごときにお使いになられた言葉だと思いますけれども、Well-being というものを指すのかというところから議論を始めました。

1つの論点として、幸福な社会を目指すのか。希望がある社会を目指すのかという点です。日本の子どもは夢を語らないというような意見が委員の方からも出されましたし、幸福と感じているときは、必ずしもそれがその次の力になるわけではないのではないかという御指摘もございました。また、あまりにも実現が不可能なものであると、それ自体を欲すること自体を引っ込めてしまうニーズの潜在化もあり、主観的な幸福感を上げることを目指す社会がいいのか、主観的な幸福感を上げることのみを目指すというのもよくないのではないかというような議論もなされました。

一方、若者にとって希望がある社会を目指すというのが一つの目標ではないかという議論もなされたのですが、一方で希望というのは希望的観測という言葉があるように、自分自身が非常に不幸で希望を求めたいときに出てくる言葉ではないかという意見もあり、議論は収束していないと私は考えております。

これらともう一つ違う観念として、Well-being があります。それは実際に衣・食・住、貧困ではないなど、生活水準自体の向上を目指すべきではないかという議論も出されました。

では、どれを目標とするかははっきりと決まっていないのですが、それらの達成に必要なものとして幾つかの論点が出されております。

1つが教育です。教育の現状認識として、学力格差、体験格差、体力格差といったものをどうするのか。義務教育でどこまで格差の解消ができるのか。落ちこぼれゼロを目標にすることができるといった議論がございました。現在の日本の教育では、表現力、創造力、リーダーシップ、国際性、体力といったものが育まれていないのではないか。それを育むにはどうしたらいいのか。また、多くの先進諸国がデジタル教育に対応している中で、日本はデジタル時代に対応するような教育ができていないのではないか。複数の学ぶ場というのが提供できていないのではないかという問題意識の下、課外活動やユースセンター、放課後クラブなどの活用がもっとできないかという議論がありました。

ボトルネックとしては、受験戦争の弊害が大きく、大学受験の改革がまず大前提としてあるのではないかという議論がありました。また、先ほど申した表現力や創造力、リーダーシップ、国際性を育てる教員の質の向上のため、教員の養成の仕組み自体を変える必要があるのではないかという議論がありました。実際の目標としては、義務教育の完全無償化、デジタル教科書の全普及、または教育予算の拡充、せめてGDP比10%まで引き上げるということを目標にしてもいいのではないかという議論が出ています。

次に、家族に関わる議論に大きな時間を費やしています。多くの委員の共通認識として、これからの日本には血縁にこだわらない地縁や社縁というものを含めた疑似家族みたいなものが必要なのではないかと意見が一致しております。これは家族がストロングタイズだとすれば、ウィークタイズと言われる、より緩やかな結び付きを指します。ただし、この緩やかな結び付きを育む

場が必要なのではないかとということで、シェアハウスや全寮制の学校、地域の人が気軽にみんなで御飯を食べられる屋台村といったアイデアが出ています。幸福部会ではなるべく「やんちゃな議論」にこだわっていますので、いろいろ斬新なアイデアが出ているのですが、すべて全員が合意しているというわけではないので、現時点ではアイデアという形でお聞きください。

家族を支える仕組みが必要なのではないかとということで、現在ある仕組みより発展した遠距離の通信システムが必要ではないか。それを国策として推進していく必要があるのではないという意見が出ています。また、異なる世代が生き生きと暮らせるような地域を育む特区構想も出ています。

3つ目が働き方に関わる議論です。ここでは長時間労働の弊害が指摘されました。残業コストの肥大化、生産性の低下、ボランティア・地域活動の抑制といった問題点について指摘がございました。そのため、これをいかに減らすことができるかというのが一つのボトルネックとしてあるのではないかと見えています。

具体的なアイデアとしては、例えば規制というものもありますし、または国際会計基準に照らして、残業時間をレートとして計上するというのもアイデアとして出ております。また、家事や介護などの無償労働の軽減として、例えば外食産業を推奨することによる食事の外部化や、介護労働などの家庭と仕事の両立支援の技術の発展。これはハード面とシステムなどのソフト面と両方があるのではないかと考えています。日本は高齢化では世界のフロントランナーですので、この技術を日本が発展させることによって、これから膨大な規模で高齢化していく中国やアジアの国々に対する輸出産業として育つのではないかと期待しています。

4つ目がいろいろな世代が交流できる場を育むような地域が必要ではないかという地域に関わる議論です。また、東京一極集中から分散した日本社会を目指す上で、今日3人の委員にヒアリングをさせていただいたのですが、例えば2050年までに8~10くらいの同程度の規模の地域に分けた形で日本をつくるべきではないかという話が出ています。

もう一つが食に関わる議論です。世界人口の増大によって、2025年、2050年という時期には食料価格が高騰していることが見込まれるため、特に格差が大きくなった社会では、幸福の基本の「き」である食事が、社会底辺層の人に十分に行き渡らない可能性がある。そのためには、どのような政策が必要なのか。

一つは食料自給率をいかにして上げるかということが、ボトルネックになっているのかなと考えています。穀物は足りるかもしれないが、タンパク源をどうやって確保していくかといったことを今、議論しています。ただ、これから高齢者が増え、単身世帯が増える中で、量だけではなく、質の高い食事をすべての人に、いかに確保していくか。今、食に困っている日本人は非常に少ないので、このことを考える機会はあまりないかと思いますが、2025年にはかなり深刻化している状況があるのではないかと危惧しております。例えば高齢者向け配食サービスを行政でやっておりますけれども、それをもう少し大々的にやる必要があるのではないか。高齢者のみではなく、もっと広くやる必要があるのではないかという話が出ています。

さらに、ほかの部会でも議論をされるところかと思いますが、他国の経済力による脅威というのは、中期的には日本に大きく影響してくるのではないかという議論があります。例えば、他の

国に土地や森林が買収された場合、食の安全保障という意味でも非常に問題ではないかという問題提起がなされています。

最後に必要な政策ですが、一つのアイデアとして選挙制度改革が出ています。例えば選挙を全義務化する、若しくは若い世代のウェートが高い選挙制度をつくるといったアイデアが挙がっております。

今後の方向性ですが、今はいろいろなアイデアをとにかく出しているという状況ですので、これを一つの報告書としてまとめていく中で、精査をして、より望ましい政策というものに絞っていくプロセスを経て、報告書を書こうと思っています。

私の方からは、以上です。

○大西座長 ありがとうございます。

部会長、部会長代理によるヒアリングというのは、個別に委員と3人で議論するというのですか。

○阿部委員 3人で2時間じっくり話し合っています。

○大西座長 今日ヒアリングをなさったから、直前に二人で一緒に来られたんですね。ありがとうございます。

それでは、次に叡智のフロンティア部会についてお願いします。

○荻部委員 資料3をご覧ください。

これまで叡智部会では、会合を3回開きまして、8人の委員から発表をしていただきました。先ほど幸福部会で希望というテーマが出されましたが、実は叡智部会でも、希望が一つのキーワードになるという議論をしています。問題点を指摘することは大事ですが、それと同時にこの人々が何か未来に対して希望を持てるような提言をするのが大事ではないかというのが、叡智部会でもコンセンサスになっていると思います。

報告の内容は多岐にわたりますので、一つの具体的な方向性はまだ見えないですが、これまでの議論のまとめとして、私の方で3点にまとめてみました。

1つは、グローバルな知や文化とローカルな知や文化の2つをどのように組み合わせるか。グローバル化は所与の条件として認めざるを得ないが、ただ単にスターバックスやマイクロソフトの商品が広がるだけでいいかというと、そうではない。その中でグローバル化を前提としながら、日本独自の知や文化の在り方を大事にして、あるいは再編成して発信していく。それを経済発展につなげていくことを考えるべきではないか。

ある委員からは、家をテーマとする報告があり、幸福部会が問題にしている家族がファミリーやホームだとすると、叡智部会の場合はハウスです。家は、土木技術からさまざまな材料、あるいは建築のアイデアやデザイン、家具、さまざまな方向に技術の発展の可能性があり、その一つの集合体となっている。

日本の家は靴を脱いで上がるという点で独自でしたが、今は、欧米でもときどき、床にラグをひいて座ったりするようになっていく。そのため、家の技術やデザインといったものを日本独自のブランドとして、海外に出していくことが一つの方向として考えられるのではないかと報告がありました。

2つ目としては、変化するもの、変化すべきものと変化しにくいもの、変化させてはいけないものをどう組み合わせるか。これは第1点と第2点の両方に関わりますけれども、このグローバルなものと同ローカルなもの。変えるべきものと保存すべきもの。それを組み合わせるためには、さまざまな知恵を組み合わせせて発信していく編集能力が必要であり、そういう知恵の在り方を教育なり人材養成システムなりで重点的に考えて作っていく必要があると思います。

ある委員の言葉を借りると、知の運動会のような場を作って、多様な人材がぶつかり合い、シャッフルし合う。そういう流動する場を作ると同時に、それをいろいろな形でまとめられるような思考力を養っていく。そういう意味で編集能力と差し当たり呼んでいます。

そのためには、例えば人がさまざまな職場を移動できるようにする。特に若い世代で正規雇用がないという問題が大きくクローズアップされていますが、終身雇用、年功序列の制度は、残すべき部門も恐らくあると思うので、全部一律になくすことは適切ではないかもしれませんが、そうした終身雇用、年功序列の在り方を見直して、企業や官庁にさまざまな人材が出入りできるようにシステムを考え、その中で自由な知性を育てていくことも考えられるのではないかと。あるいは若いうちからなるべく海外生活を経験できるように、高校、大学の学生が海外で研修できる機会を増やしていく。そういったことが議論されています。

3つ目として、知と言った場合にデータ化、あるいは言葉の情報として表現できる知恵、知的能力と、身体に組み込まれた判断力や勘、知恵の両方を組み合わせせて発展させるような在り方を考えた方がいい。つまり、身体をどういうふうにか動かすかというのは、実は人と対話するとき非常に重要なものであり、そういうことにも実はこれから先、注意していかなければいけないのではないかと指摘がありました。

ある委員からは、今は小学校で舞踊、ダンス、演劇の教育がプログラムに入れられるようになってきているが、現状では体育の先生がついでにやっているようなものにとどまってしまっているので、きちんと一つの身体を知恵を養う機会として、もう少し本格的なものにしていく必要があるのではないかと問題提起がありました。

あるいは言葉にならないような余韻とか余白、ある委員の表現を借りると、日本の文化は引き算であり、言葉をたくさん並べてすべてを埋め尽くしてしまうのではなく、言葉と言葉の間にある「間」のようなもの大事にする。それもある意味で言葉にならない、データ化できない知の在り方であり、そうした余白や引き算の一種の感受性を養っていくような文化や教育の在り方を考えるとよいのではないかと。

そのような議論を今のところはしており、今後は4回目にまた3人の委員から報告をいただいて、中間報告に向けた議論を進めることを予定しております。

○大西座長 ありがとうございます。

それでは、最後になりますが、平和のフロンティア部会の御報告をお願いします。

○中西委員 審議状況については皆様のフォーマットと少し違い、今後の予定もこちらに合わせて書いておりますが、これまで3回会議を開催し、部会長・部会長代理を含め、10の方がプレゼンテーションをしております。あと1回プレゼンテーションをしていただき、それ以降は中間報告に向けた議論をする予定です。

部会の皆様の雰囲気は同じ方向を向いているような気がします。主な論点として、全体としては今の延長線上では、日本の国際社会における立場は苦しいので、かなり大胆な変革をしていかないと2050年に向けた日本の在り方というのは厳しいだろうというトーンです。

個々の論点として、2050年の国際政治については、データの延長で計算することはできますが、あまり信頼性がなく、予想困難だが、2025年はほぼ現在の延長線上でも国際政治状況は予測できるのではないかと。特に日本にとって重要な中国とアメリカを軸に据えたときに、2025～2030年には中国がアメリカにGDPで追い付く可能性が高く、それが日本の国際環境の大きな基軸になる。その後は中国とアメリカの差が開いていく可能性もあるし、逆にアメリカが抜き返す可能性もある。2030年ごろまではアジア太平洋地域が世界経済の成長の中心であり、最もダイナミックな変化を経験するであろうと。それ以降は、わからないのですが、一つの可能性としては、南アジア、中東、アフリカ、中南米といったような地域に世界経済の中心が移っていく可能性もある。そのこともある程度考えておかないといけない。

そして、先ほど申し上げたことと重なりますが、冷戦が終わってから、あるいは過去十数年、日本の国力は徐々に衰退ないし縮小傾向にある。別の言い方をすれば、じり貧で、何かを守ろうとしてジタバタやっているうちに力を縮小させていつている状況にあるという認識について、私を含め、複数の委員から御報告があったと思います。

そのため、大胆な発想の転換、既存の制約の突破なしには、日本はこのままいくと国際政治において受け身の存在となって、最悪の場合には日本の領域・領土・領海の支配といった最小限の主権すら守れない事態が起きてくることも考えられないわけではなく、厳しい現状認識を持っている委員が多いという印象を受けております。

平和や安全保障といった場合に、いろいろなレベルがあるのですが、一番基本になるのは物理的あるいは政治的な中核的主権といったようなものがあり、それをハード・セキュリティと考えたときに、米中の中に地理的にも経済的にも文化的にも位置していることが、日本の条件としては基本的に重要である。先ほど触れましたように、米中が政治、経済、軍事面で2020～2030年ごろには、かなり拮抗してきているという状況を考えた場合に、いろいろな要素を勘案してみても、集団的自衛権の行使の検討を含めた日米同盟の強化、あるいはアメリカ以外の海洋ないし民主主義国との協力の強化が必要であろうという点で、今のところは部会内で基本的に一致しています。個別論点に踏み込んだ場合にどうなるかはわかりませんが、これまでのところはそういう方向でいいという雰囲気であると思っております。

ただ、国力、軍事力、経済力という日本のハードパワーには限界があるので、先進国、新興国を含めた国際ルールを強化することに日本が貢献し、日本の安全を高めるといった形が望ましい。その意味では、ハード・セキュリティと更にそれ以上のソフト・セキュリティ、あるいは広い意味でのセキュリティというものが相互連関的であると思っております。

広い意味での平和に、どこまで含むかというところは難しいですが、今日の平和というのは、狭い意味での戦争のない状態ではないということは多くの人々が一致するところであると思っております。経済的な一定の繁栄や安心感、あるいは人間の安全保障といった多面的要素を含んでおり、そういった側面について、戦後日本が平和主義を掲げて役割を果たしてきたことは、肯定的に評価で

きます。そして、その側面は今後も日本の外交力の資源として強化されるべきであるという点でも多くの委員の認識は一致していると思います。

他方で過去30～40年にかけて、日本の平和主義を支える大きな基盤となってきた経済大国としての地位は、構造的に失われつつあり、それ以外の日本の能力を見直す必要があるのではないかという御意見がありました。日本は西洋以外の世界で、ある種の創造力を持っているという点に強みがあるし、あるいは昨年の震災で示されたような社会的強靱性といったようなものが広い意味での日本の重要な国力であり、資源であることから、こうした要素を効果的に生かすことが重要である。

また、他の部会でも触れていましたが、日本は少子高齢化などの課題先進国ですので、そうした立場を生かした新分野や独自の新フロンティアの改革を大胆に行う必要があります。

他方で複数の委員が強調されたのは、日本が世界からいつの間にか知的にガラパゴス化しつつあるのではないかということです。日本は西洋に一番近い非西洋の国とかつては考えておりましたが、今は新興国あるいは例えば中東世界などでも上層中産階級に限ってみれば、非常に欧米社会と双方向的な知的交流をやっていって、エリート層と深いネットワークを築いている。それに対して日本というのは、良かれ悪しかれ知的世界、言論空間というのが孤立している。これまでそこそこ日本の自前の力があつたので、何とか世界的にも尊重されてきたけれども、このまま縮小傾向に行くと、このガラパゴス化が続くと世界の中で無視される存在になってしまうという懸念がかなりあります。

そういった問題にどう対処するかということは、必ずしも平和部会のテーマではないかもしれませんが、教育制度、メディアの在り方、あるいは公務員の人材育成、具体的には、2年、3年交代でポジションが変わっていくため、他国の同じポジションの人が10年、15年同じ仕事をやっているのに対して、対抗し得ないということがあって、こうした問題は昨日今日に認識されたことではなく、過去にずっと認識されてきているとは思いますが、なぜかうまく対応仕切れていないという点に問題があるという御指摘がありました。

繰り返しになりますが、今後の議論の大きな方向性はほぼ見えてきたと思いますが、それをどのように肉づけするかがなかなか難しいと思います。議論の大きな方向性としては、能動的平和主義や国際秩序のルールメーカーといったような戦後日本のよき側面をより大胆に、新しい力を生かして強めていくということが必要である。そして、2020～2030年にかけては、米中関係を軸とした国際秩序の文脈の中で、日本のハードないしソフトなセキュリティを考えていく必要がある。

そして、それらのためには、既存政策の抜本的な変革による国力の向上が必要という、これくらいの大枠は一致しているのではないかと思います。何を具体的提言として盛り込むのかということが、平和というテーマだけでも当然ながら多岐にわたりますので、この限られた時間で国民に読みやすいものを書くという点で、どう絞り込んでいくかが重要であると感じておりますが、他の部会の御議論とどれくらい調整できるかという問題があります。国力と言ったときに経済産業に関わる問題、あるいは貿易をどこまで担保できるかということ、財政の見通し、教育、公務員制度あるいはトップレベルでの意思決定の国家体制といったような問題を扱わないといけな



ので、この辺りは他の部会のお考えとも併せながら、整合性の取れた報告書にしていければいいと思っている次第であります。

私からは以上です。

○大西座長 どうもありがとうございました。

4つの部会からそれぞれ御報告をいただきまして、ありがとうございます。今日の分科会の位置づけですが、それぞれの御報告にもあったように、各部会においては、委員のプレゼンを聞いて、ディスカッションをするというやり方で進められていると思いますが、まだ全部終わっておらず、このまま少し継続して今のやり方を進めていくことになると思うので、今日は何かをまとめるということではなく、まとめの方向を意識しながら、全体の議論を共有するというのが今日の会議の目的になります。

お手元に1枚、私が作った議論の整理という紙があります。私も少なくともそれぞれの部会に1回ずつ出席して、お話を伺ったわけですが、議論全体を通して、フロンティア分科会として主張すべきポイントが何なのかを考えるため、各部会の議論と、事前に拝見させていただいていた今日のまとめの資料を見ながら整理を試みたものです。

暫定的ですが、国際化が進む、若い世代の活躍、流動性、日本の強み・個性を生かすというような統一されていない表現ですが、キーワードを書きしてみました。しかし、それだけでは収まらない問題があって、右の平和のフロンティアの欄に、日本の国力衰退とか経済大国を維持できずという言葉がありますが、GDPを求めるのか、1人当たりGDPを求めるのかという問題も2050年を考えると時の考え方の基本として、「経済発展」を最後に付け加えて、5つとしました。

このように、フロンティア分科会全体として、何を重要な概念として整理をしていくのかということで、私としては表側が大事だと考えております。さきほど武田委員から御紹介があった柳川部会長のコメントの中で、議論の柱として、「未来世代を主人公にすること」と、「国際的課題に貢献できる日本になること」の2点が挙げられていました。これは期せずして「国際化が進む」と「若い世代の活躍」という私の上の2つと対応しているのかなと思っており、そのようにまとめてみました。全体の議論の中でもこういうことがそれぞれの部会の中で、いろいろな形で強調されたのかなというのが私の印象です。

今日はそのように、全体として、何が強調されているのかということ、感想も含めて述べ合いながら、次のステップに行くことを考えておりますが、まず、何回かそれぞれの部会の議論を聞いていただいている座長代理と事務局長にご発言いただきます。

○小林座長代理 ありがとうございます。私はまだすべての部会には出席していませんが、今日聞きまして、どこの部会でも元気な議論が進んでいるということがよくわかりました。

この縦横表は非常にわかりやすいと思うのですが、特に今日の御報告を聞いて思ったことは、日本にとって何が世界に提供できる付加価値なのかということ、割と皆様方の関心があるのではないかと。この表で言うと「日本の強み・個性を生かす」ですが、そこが何なのかということだと思います。

GDPについても一国のGDPか1人当たりのGDPかというお話がありましたが、GDPを分解すると付加価値そのものであり、何を付加価値として提供するのかということがあります。また、マイ

ンドセットの変革をすることが必要だということ、創造力を養うことが必要だということ、家が新しい価値の発見の場所ではないかということなどいろいろなお話がありました。大事なことは目利きをつくらうか、消費者の側が何を価値だと思ふのがキーポイントかなということで、誘導することがいいとは申しませんが、それぞれの部会から、これが日本の世界に対する付加価値であり、それは日本に住んでいる人たちの生きがいにもなるんだということを書いていただくと、すごくおいしそうなレポートになるのではないかと感じました。

そして、ルールを作る日本もそのとおりだと思ふのですが、マルチのルールを作るのは難しいわけですが、これが世の中にとっていいことだという提案をし、それがいいことだと思ふ日本人がいて、生態学の言葉で言えば共進化といいますか、世界と一緒に進化をしていけると、ガラパゴスでない方向に進化できるのではないかという気がいたしました。

そういう意味で今日聞いていて、日本が世界に何を売っていくのが大変重要だと思つたところです。

○大西座長 ありがとうございます。事務局長お願いします。

○永久事務局長 私はすべての部会に出席しております、逆にどの部会でどの議論があつたかが混乱しており、うまく頭の中で整理できていない部分もあるのですが、議論の中で重要だと思つたのは、先ほど知の編集という話がありましたが、編集力です。つまり、違つたものをどうやって組み合わせ、どうやって実際につくり出していくかということが出来る人を育てていくのが重要かと思つていました。

議論が希薄だなと感じている部分もあり、例えば科学技術の進展によって、どれだけ世の中が変わっていくのかという点について、叡智部会で、IT技術などは2年、3年先もわからないという中で、どうしようもないというような意見もありました。

ただ、2040年とか近未来シミュレーションのテレビなどを見ていると、医療技術がものすごく進んでしまつて、寿命がさらに延びるとなると、医療費や、財政問題はどうか。とんでもない世界になってくる可能性もないわけではなく、いいことですが、今の財政状況とか経済状況が一気に変わってしまうこともあり得る。

あるいはコミュニケーションの状況についてもどの程度進歩しているのか想像が付かないが、もう少し前提を置いた議論や、対応が考えられるかなと思つており、むしろ、いろいろな問題を解決するために、そういうものをこうやって使つていこうではないかという提言にもつながる話に持っていけるのではないかといった感想を持っています。そのため、もう少し科学技術の議論もしていただければというのが一つの願いです。

これは多分、繁栄部会の話になるかと思いますが、例えば宇宙、海洋、資源、エネルギー、環境など、これからの議論なのかもしれませんが、今のところは余り出てきていないので、その辺りをお願いしたいと思つております。

ただ、一番重要に思つたのは、既にお話がありましたが、マインドセットの問題で、どうやってやる気を起こさせていくかが極めて重要で、そのためには我々がここで議論をしているものをどうやって世の中に広めていくというか、みんなにその気になってもらうかという仕掛けも必要かなと思つており、それについてはまた後でお話したいと思つています。

最後に、このマトリクスはすばらしいなと思っております。「国際化が進む」というのはグローバルイズムという、今、進んでいることです。国際化が進めばグローバルイズム、若い世代の活躍は少子高齢化のこと、「流動性」は生活の多様化という話、「日本の強み・個性を生かす」というのは経済発展、経済衰退の話なのかなと考えております。それに対応する形で、座長がまだ改良の余地があるとおっしゃっていましたが、自動詞と他動詞が混合しているので、例えば国際化を進めるとか、若い世代を活躍させるとか、流動性を深めるとか高めるとか、最後はそうになっていますけれども、今の要件としてある変化に対して、こういうことをやろうというような一つのメッセージになっているので、すばらしい分け方だなと思っています。

最後に「経済発展」というのは、「日本の強み・個性を生かす」の中に組み込めるような議論になっていくのではないかと思ったのですが、このような形でやっていくと面白いまとめ方ができるかなと思いました。

更にマトリクスはいろいろな活用ができて、例えばこれを政策領域別にマトリクスを作ってしまったらよくて、繁栄、幸福、叡智、平和のそれぞれがあって、後は政治経済とか社会保障とか、そうした政策領域でどこのフロンティアがどのようなことを政策領域として、具体的な提言があるというような、そうしたマトリクスを作れるかなと思いましたけれども、それは最後にやることなのかなとも思っています。

あともう一つ、教育が極めて重要ですがけれども、叡智のフロンティア部会と平和のフロンティア部会では、若い人の活躍の場をもっともっと欲しいと。高齢者と言われる方々には早く違う場所に行ってほしいとか、チャンスを譲ってほしいというお話がありました。

一方で、繁栄のフロンティア部会では、高齢者が活躍する場も欲しいという議論があって、その辺りの整合性をどうとるか。あるいは農業の問題もあって、グローバルイズムが進む中で、保護するものとして農業をとらえるのか、それとも自由化の中で農業というものをとらえていくのかという、横の議論も必要なかなと思いました。

○大西座長 どうもありがとうございました。

我々3人は特定の部会に属さないのですが、お話を伺って、こういう整理をしたいのですが、整理をされる側は分解されると余りいい気持ちがないかもしれませんが、共有するということで御理解をいただきたいと思います。

それでは、あとは議論をオープンにしたいと思いますが、せっくなのでまだご発言いただいている委員からいかがでしょうか。

○上村委員 幸福のフロンティア部会で話し合っているときに、幾つか気になったことがあります。2050年の日本は人口が急激に減り、8,000万人くらいになるということですが、そのときの国の在り方です。特に地方がどうなっているのかということが議論されています。ある委員によれば、都市に人口が集約する一方で周辺都市は寂れてくるのではないかと、各地に都市国家のようなものができるのではないかと、ということでした。つまり、将来の行政の在り方、もしくは家族なり地域の在り方が、どう変わるのかをある程度はイメージしておかないと、将来像は描けないのではないかとということです。

2050年ということを考えると、他の部会では、国や地方の在り方について、どのような認識を

持たれているのか、話を伺いたいです。この場合は他の部会とのすり合わせが一番大事な仕事だと思っています。

もう一つは、特に単身世帯が急増するので、そのときに国の在り方、地域の在り方を、繁栄、叡智、平和の部会はどう考えるのかという論点があると思います。これは幸福の部会にも勿論関わりますが、家族形態が非常に変わるし、地方の在り方も変わる。国が人口変動でかなり変わってしまうので、そのときに我々は、どういう行政なり政策の在り方を考えるべきかということが大前提として、各部会である程度、認識を共有しておくべき点だと思いました。

○大西座長 どうぞ。

○栗栖委員 私も部会間の検討内容の刷り合わせといったことが気になって、今お話を伺っていました。例えば今、地方の話が出ましたが、平和のフロンティア部会でもそういう議論があって、これからはコンパクトシティみたいな形でやっていかざるを得ないのではないかという議論もありました。当該部会で出てきた議論をどういうふうにして他の部会に伝えていくのか。今のコンパクトシティについて必ずしも部会全体のコンセンサスがあるという話ではないのですが、せっかくですから部会で出た意見を他の部会に横へと伝えられるメカニズムがあったらいいと思いました。

平和のフロンティア部会でこの間は教育の話が議論され、おそらくどの部会でも教育は非常に重要だということになっていると思います。平和部会では2つの意味で考えています。教育は国力の基盤になりますが、その際に一つは全体的な学力の向上がありますが、もう一つとして、平和のフロンティアとして非常に重要であると考えていたのは、先ほども話があったように、グローバルな場面において対等にあるいはさらに優位にたつて自分たちの言いたいことを伝えて交渉ができるような人材をいかに育成していくのかです。

国民全員がグローバルな交渉者になる必要はなくて、一部の層の人たちがそういう能力を身につけることが日本がこれから生き残っていくために相当不可欠ではないかという認識があったと思います。

あと本日の議論で気になったのは、例えばメディアの将来はどこで扱うのか。先ほど挙げた公務員制度はどこで扱うのか。その辺りがまだ明確ではないという気がしました。個人的にはジェンダーの議論はどこに入ってくるのかなとも思っています。それぞれの部会の各論に分かれて入っている気もするのですが、それ自体は抜き出してとらえていない。それは一つの方向性かなとは思いますが、全体像が見えない。それが感じたところです。

以上です。

○大西座長 ありがとうございます。

今、全体の共有という話が出ましたが、ホームページを作成するべく事務局長に準備をしていただいています。ホームページに載せる内容は大体常識的なことですが、どのくらいのところまで載せるとかいうことを工夫して、一般の人にも見てもらうということなので、委員の相互の議論の共有ということを超えているわけですが、1つはそういうことをしたい。

もう一つは、議事要旨をまとめているわけですが、議事要旨に関して少し事情の違いがあります。場合によってそれがその後の研究に差し障ることもあるので、議事要旨の公開について少しセンシティブになっている部会と、名前も含めて全部公開できますよという部会があって、最終

的には終わった段階ですべて公開をするということですが、当然そのときにも、どうしても困るところは削除するべきだと私は思っています。

途中の段階では少し部会にお任せしたい。名前は匿名というのが最初のルールでしたので、名前は伏せて、発言の要旨を議事要旨として出すことを原則としますが、名前もむしろ積極的に公開したいという部会があれば、できるだけ、そうしたいと思います。

○中西委員 議事要旨について、ローカル・ルールの話をしたのは私どもの部会ですので、メカニズムのことで申し訳ないですけれども、補足させていただきます。今、座長からお話がありましたように、平和部会で特定の国名あるいは地域も含めて率直に議論をするとなると、あのとき政府の委員会でああいう発言をしたということが比較的短期に出ることで、いろいろな形で今後それぞれの方のお仕事に影響が出るとよろしくないという御意見が複数の方からありました。

私の考えで事務局とも御相談をさせていただいて、分科会の開催期間中は御案内のように、名前を出さずに議事要旨という形で出して、会議が終わった後も平和部会の議論については、名前付きの議事要旨の公開は何年かは控えていただくということを原則にしたいということで、事務局にも確認し、そのように私の方から部会のメンバーにはお伝えをしているということでございます。勿論、情報公開法等の縛りがあるので、議事録は取っておいていただくことにします。

○大西座長 他の部会でどういう議論があったかがわかるように、公開は一般の方も含めてですが、いろいろな事情を尊重したいと思っています。

では、残りの時間は自由討議とします。

○武田委員 先ほど事務局長から若い世代と高齢者について、繁栄と他の部会で議論の方向性が違うのではないかという御指摘をいただいたのですが、これは違わないという点を申し上げたいと思います。

むしろ多くの委員が主張されていることは、人材の育成や教育を強化して、若い世代により活躍してもらうことが量の面でも質の面でも必要だという点です。ただ、若い方に活躍していただくためには、逆に高齢者に別のところで活躍していただく必要があるという指摘もございます。

現実を直視するという点にもつながるのですが、日本は社会保障費が膨大な金額にのぼっており、今後一段と増加することが想定される中、一定の年齢以上の方にもやりがいを持って働いていただき、医療費等を抑制する努力が必要ではないかというご意見もいただいております。

これを両立させるには、こちらのまとめ表で言えば私は流動性だと思います。雇用市場が硬直的なため、高齢化が進むと若い人にチャンスが回らない。流動化すれば、若い人にもチャンスが巡ってくる。一方、一定年齢以上の方にも、ライフステージ、健康状況や体力などに見合った第2、第3の働き方もあるのではないかと思います。

例えば一案として、退職年齢をむしろ引き下げた方がいいのではないかと、あるいは人生二毛作とか三毛作といった意見もございます。この意見が部会の一致した見解というわけではございませんが、若い世代の活躍と高齢者がいきいき暮らせる社会の両立を繁栄部会ではイメージしているということです。若干補足させていただきました。

○大西座長 前回の叡智部会に遅れて行ったのですが、若い人材に場を譲れという発言をされているところにちょうど私が入って行って、あれ、何で自分のことを言われているのかなと思った

わけですが、それは非常にどこの部会でも、若い人の活躍という意見が強かったと思います。かなり強烈な印象で、何となく私は今まで若い人たちはそういうことをあまり言わないのかなと思っていました。自分たちの学生を見ていて、教師にいきなり、おまえに代わりに俺が教師をやるとはなかなか言わないものなのかもしれないけれど、そう思っていたのです。

しかし、この部会の議論で非常にそれを印象深くして、変な言い方ですが、頼もしいなという感じもしました。そういう点では希望が持てるという感覚もそこから出てくるのかもしれないです。やりたいというなら、やってくださいという感じもします。

○中西委員 今、座長がお話になったとおり、若い世代、特に4部会とも大体40代ないし30代の方が多いと思いますが、世界的に見ると40代、30代はもう若いとは言えないので、今、座長がおっしゃった点は、むしろ我々の世代の人が更に若い人を見て、ある程度懸念かもしれないし、不思議に思っているというか、なぜアラブの反乱が日本で起こらないのかということなのです。

確かに若い人はいろいろな面で社会的に不利になっているような条件が客観的にはあるように見える。デモなり反乱がないことは政治なり国全体にとっていいことかわからないが、若者が積極的に発言をせずに動こうとしない。能動性の欠如というのはいい面ばかりではないという点も議論がありました。ですから、そこをどう変えていくのか。目上への敬意なり、日本の文化として尊重されるべき点は当然あると思います。ただ、それが過剰になってしまうと、活力なり世界の中でのガラパゴス化ということにつながりかねないので、そのバランスを取るのが結局難しい。

私はバランスというのは非常に重要だと思いますが、あまりバランスばかり考えると、私のプレゼンで申し上げたように、結局いいところ取りをしようとして、どんどん時間が経ってしまっていて、先送りになってしまうので、少なくともこのフロンティア分科会の意見としては、バランス重視よりはやや現状変革というものを重視して、今このままではできないことを、何を大胆にやるべきかということ強調すべきではないか。これは部会全体というよりは個人の意見ですが、大体そういう雰囲気だと思います。

ついでですので、繁栄部会で社会保障の話もありましたが、当然ながら日本の先行きを考えるときに社会保障を中心とした財政問題の見通しが柱になってくると思います。ですから、繁栄のフロンティア部会の方でこれくらいの経済成長は政策をきちんとすれば見通すことができる。2050年は難しいだろうと思いますが、2025年なり2030年なら、ある程度予想できるのではないかと思うので、それに基づいて、そのほかのいろいろなテーマも重ねあわせて見ると、日本の財政状況というのはそれなりの対応が取れるとすれば、どのくらいのことになるというビジョンを教えていただける機会があればいいなと思うのですが、その辺りはいかがかという質問をさせていただきたいと思います。

○大西座長 途中で幾つかの部会から将来見通しというか、2050年について予測したような作業が既にありますので、そういう資料を提供してくださいという要望もあったようですね。それについては、このフロンティア分科会の数か月の中できっちりとした予測をするというのは現実問題としては無理なので、既にある社会保障・人口問題研究所などを活用して、それだけというわけにはいかないでしょうが、それをベースにした議論は必要だということで、幾つかそういうのをもう既にリストアップはさせていただいていますが、少し整理して提供するということがいかが

ですか。

○永久事務局長 今ある資料でどうなるかというものと、恐らく座長のお話はもう一つのお話があって、例えば繁栄部会でこういうことをやったら経済成長がどう変わって税収がどうなるとか、あるいは幸福部会に多分関わる話が多いと思いますが、支出の方からどうなっていくとか、座長がフォーキャスティングをやっていた部分ではなくて、バックキャスティングをしたときに、それがどう変わるかということも含めた話ではないかと思っております。

○中西委員 おっしゃるとおりで、私は門外漢なので簡単に申し上げるのですが、専門家の方は当然そんなことは簡単にできないとおっしゃると思いますが、非常に手荒な言い方で目の子算的に我々が考える政策を実行すれば、これくらいになるというイメージを与えていただけると、それにシンクロして、例えば我々の部会では ODA などの対外政策にどれくらい割けるか、または他のことができるかというミクロにつなげることもできると思います。その辺がなかなか見通しが立たないと難しいところがありますので、あえてお尋ねしているという次第です。

○武田委員 今後、部会長に御相談させていただきますが、少なくとも現在までの状況で申し上げれば、数字の議論というよりは、目指すべき方向性が何なのかということや、その目指すべき方向性に向かっていくには、何が今ボトルネックであり、それをどう変えていったらよいか、などに議論の重点が置かれております。中間報告まで時間も限られておりますので、数字の必要性などについては、今後、よく相談してまいりたいと思います。

一方、先ほど私が申し上げたとおり、繁栄のフロンティア部会でも現実を直視したビジョンにしたいという思いは数多くの委員がお持ちで、例えば何かをするには何かを削らなければいけないといったプラスとマイナスの議論の両方が必要だと思っております。理想だけを語るのではなく、現実感を持ってやっていきたいという認識でおります。ただ、その結果を踏まえた GDP などを計算するという議論にはなっていないというのが現状でございます。

○大西座長 他の点、あるいはそれに関連しても結構ですがどうぞ。

○上村委員 幸福部会の場合は、社会保障政策を主に扱っているような感じになっておりますので、今の話にある政策によって、どれだけ歳出が増減するのかということ、本来は考えるべきだと思います。しかし今、幸福部会にて出ているアイデアは、恐らく繁栄部会と同じだと思いますが、その政策をやったときに、どれだけ歳出がかかるのか。もしくは歳出が削れるのか、厳密な数字まではなかなか出せないというのが、率直な考え方です。

厳しい財政政策は念頭に置きながら、その中でどれだけのことができるのかというように、現実を直視しながら考えていきたいと思っておりますが、短期間の間にその数字を出すのはかなり厳しいかなというのが私の意見です。

○阿部委員 今の財政状況や社会保障の状態というものから出発すると何にもできなくなってしまうので、今、私たちがやっているのは 2050 年のあるべき姿をまず描くこと。それを達成するためには何が必要かという議論もこの次にやっていくわけですが、そこを見据えて、それからバックキャスティングをしていくというやり方にやはり徹底したいと思っております。特に幸福部会では、あまりにも制約が多いものですから、「今」から出発をしてしまうと、消費税は何%みたいな議論に陥ってしまいますので、そこは避けたいと思っております。

○大西座長 どうぞ。

○古川国家戦略担当大臣 中西委員がおっしゃるように数字も大事だと思いますが、数字を考え出すと非常に固まった枠の中でしか発想ができなくなると思いますので、勿論、最終的にはそこを考えないといけないですけども、あまり最初からそこにとらわれず、私は今の日本を今の枠の中で何とかしようと考えていてはだめで、アウト・オブ・ボックスの発想をしないとイケないと思います。

最初に財政という形になると、どうしても箱の中の議論となってしまう、この中でどうしようかという話になるので、なかなかアウト・オブ・ボックスの発想ができないと思います。そのところは取り払って考えていただいた方がいいのではないかと思います。財政も今までのやり方を考えるべきではないかと思えます。例えば税金と言うと、みんなはお金という発想になりますが、かつて日本では租庸調というのもあったわけですね。米で払える人、物納する人もあったりもしたわけで、すべてを貨幣とか税とか保険料みたいな形がいいのかということもあると思えます。

また、つい2日くらい前ですか、ニュースで見えていましたら、ある集落は今回の地震・津波を受けて、津波の様子を見てみたら、この辺まで津波にやられる。ただ、高台に行こうにも高台があまりないので、高台にある県道にまで通じる道をつくろうということになった。ところが待っていても、お金がいつ付かわからないし、時間もかかる。だから、何をやっているかという、集落の人たちが出て行って、自分たちで避難路をつくったということです。

これは集落の人たちが自分たちでやっているのですが、税金はかかっているわけではないわけですが、もともと租税というのは社会で共同生活をするために必要な費用をお互いが分け合うというところで始まったとも言われているようですが、ある種その社会を共有するためにやらなければいけないことのいろいろなコストをどういう形で賄っていくかというのは、必ずしも税とか保険料というお金だけではない。

また、そこが幸福部会でも私から申し上げたと思えますが、居場所と出番です。人々にコミュニティの中で居場所と出番がある。先ほど話のあったバーチャルファミリーのように、その人の役割があれば、当然それはコミュニティの中で大事にされていく部分です。そういうこともあるのではないかと思いますので、数字も勿論考えていかなければいけない部分もあると思えますが、あまり最初にそこから入ると、今日のお話を聞いていると皆さんは非常に自由に議論をいただいているのがばたっと枠の中に収まってしまいそうな気がしましたので、そこは是非、最後にまた考えていただければと思います。

○大西座長 どうぞ。

○永久事務局長 平和部会の立場からすると、なかなか難しいと思います。要は国力で随分オプションが変わってきてしまうので、国力がわからない状況で、どうしたらいいのかという話になってしまいます。ですから、それを多分懸念されていらっしゃるのだらうと思います。

そこで御提案ですけども、シミュレーションみたいなすごく緻密なものはやる必要もないのですが、一つの目標というか、ここくらいは頑張りましょうみたいな、余り非現実的なものでは困るんですけども、そうしたものをある程度提示することは必要なのかなという感じがします。



○大西座長 どうぞ。

○中西委員 今、事務局長がおっしゃっていただいたような、我々の議論のベーススということもありますが、それはいろいろと難しいことがあるというのはよくわかるので、数字的に難しいというのは、回りを見てもなるほどなという感じでしたが、もう一つの点では、すべての部会で若い世代の人に一つのフォーカスを当てるといことは共通していると思いますが、若い世代に対していかに説得力を持たせるかという点、彼らはいい話はもう聞き飽きているのだと思うのです。これをやれば、こんないいことになりますよという程度の話は聞き飽きていて、古川大臣がまさにおっしゃった、箱から抜けるにはどうしたらいいのかという点で、今、我々を一番拘束している箱の象徴が財政だということは、若い人はよくわかっていると思うのです。それから抜ける話をできないで、あとはこういうことをやればよくなりますよという話をして、若い人に一番説得力がないのではないか。その点を心配しているの、具体的に数字を出すことは難しいということも私もよく想像できます。

ですから、今、古川大臣がおっしゃったような話でもいいですし、財政とか経済成長の何%とか、そういう話はしなくても、リアリティがある説得的なストーリーを付けないと、またこれかと若い人がそっぽを向いてしまうと思うので、その点についてもう一つお考えいただければと思います。

○大西座長 さっき話のあった二毛作というか、少なくとも人生2回。寿命が延びていくので、確かにそういうことを考えないと、社会保障に入らないとすれば働くことになるわけですが、一番手っ取り早いのは今のポストにずっといることで、そうすると下の方があぶれることになる。したがって、どこかで一旦区切りをして、次は次で2回楽しんでくださいという議論は非常に現実的になっていると思いますし、必要性も高いです。結果としては80くらいまで次のところではそれなりに働けると。社会保障はほとんどの人はまだ要らないというふうになると、65で区切っている議論が変わってきます。

○永久事務局長 一方で、年代で区切るのはどうかなという議論もどこかであったと思います。要は流動性を高めれば、若い人の活躍。それも力次第の話であって、高齢の方でも若い人と同じか、それ以上に働く力のある方もいらっしゃるの、それと力のない若い人が交代と言うのは逆におかしいです。

ですから、流動性を高めることによって、必然的にいろいろな人の活躍の場がいろいろなところで起きるのではないかと思います。年代で区切ってもいいですけども、そうしたことも考えなければいけないかと思います。

○大西座長 あと5分くらいですが、どうぞ。

○阿部委員 1つ、あまりほかの部会の議論の中で出ていないで、私たちの方も全然タッチできていないところなのですが、幸福を考えると、だれの幸福かという話があります。それは日本国民の話なのか。そのころは人口も少なくなっているの、移民とかいう話も出てくると思いますが、そこら辺は私たちの方では、これは幸福のフロンティアの守備範囲ではないかなと勝手に思って、あまり触っていないのですが、移民については他の部会から、何か議論が出たのでしょうか。

○大西座長 全般にあまり日本人だけの幸福とか繁栄という話はなくて、コスモポリタンな議論が多い気がします。

○阿部委員 具体的には、移民がどれくらい入っていると想定するとか。

○大西座長 繁栄とか幸福とか平和とかいう概念は、世界を対象としているという議論が多かったと思います。ただ、その中で日本の強み、個性という議論も一方でありましたが、事務局長は移民とか日本に新たに來るような人を含めて幸福を考えるということはどうお考えでしょうか。

○永久事務局長 全然問題ありません。

○荻部委員 叡智部会では、委員の一人の報告の中で、これから先、いろいろな文化の背景を持った人が入ってくるので、むしろ多様なまま日本の中で暮らせるような枠組みをつくるのが、文化の活性化につながるのではないかという話がありました。そこから後の多文化教育をやるかといった点にはまだ踏み込んでいないですが、そういう意見はありました。

○大西座長 どうぞ。

○中西委員 平和部会でも、移民という言い方では必ずしもないですが、人を受け入れるということは、先ほどの人材や教育といったことと一貫して、話としては大きく、これは私の個人的な意見かもしれませんが、公務員と民間の交流が必要だという話があって、公務員をやって、民間に行って、また公務員にというようなことはある意味では、国民と外国人というものの枠を変えていくことにもなると思います。

公務員は今のところは日本国籍を持っているとか、そういう枠があると思いますが、そういう枠に拘らずに人を使っていくということも必要になってきていると思いますので、そういう意味では、国民なり日本人の定義の在り方というものも考え直すというような芽が出ていないわけではない。

ただ、これは日本のアイデンティティとか伝統といったこととも関わってくるので難しい面はありますが、基本的には移民なり外国からの労働力であったり、留学生であったり、そういう人を受け入れるという話には割とポジティブでした。

○大西座長 まだ議論が残っている感じもしますが、そろそろ時間になりましたので、引き続きそれぞれの部会で議論を進めていただくということで、今日のまとめについては、資料1～4として各部会から出していただいたものについて、全員に資料として配った方がいいと思います。私の作った資料を、一覧性があるように補って、こんな議論がそれぞれ行われているということで、資料として完成させて配布したいと思います。

それでは、次に事務局長から、本分科会の広報の方針について、お願いいたします。

○永久事務局長 広報としていろいろなことをやらなければいけないとは思っているのですが、その前提条件として、インフラという形でフロンティア分科会公式ホームページをつくりたいなと思っていて、それはもう既に始めつつあります。今どういう状態になっているかというのは、皆様御存じだと思いますが、フロンティア分科会でどういう議論がなされたかというのがどこにあるのか、なかなか見つけにくい状況で、あとは総理の動きというビデオのクリップも官邸のホームページにあるのです。それはそれで問題ないのですけれども、それを集約するような形にして、更に座長のビデオクリップもできたらなと考えております。正直に言えば、一般向けの

ホームページを作って、よりこのフロンティア分科会を認知していただけるようなものにしていきたくと思っています。そこに行けば、必ず議論がアーカイブ化されていて、わかるというような形にしていきたいと思っています。

そこで一つ、その使い方ですけれども、例えば皆様の中には、ブログ、あるいは SNS などフロンティア分科会について発信をしていらっしゃる方ももう既にいらっしゃいますが、その際、ここが正式な公式サイトですよという形で、リンクを貼っていただけたら、公式な場での議論をきっちり見ていただけるのではないかと思います。ですから、そういった意味でも御活用をしていただければと思っています。

あとはまたいろいろ考えていますが、もう少し具体的になりましたら、皆様にお願ひしつつ、進めていきたいと思っています。

以上です。

○大西座長 3月中にできれば、ホームページを開設するのですね。

○永久事務局長 3月中にできればと思っています。

○大西座長 それでは、最後に古川大臣、お願いいたします。

○古川国家戦略担当大臣 どうも本当に皆さん、お忙しい中をお集まりいただき、遅い時間ありがとうございます。私は繁栄の部会だけお邪魔できていないのですが、あとの3つの部会はお邪魔をさせていただいて、大変闊達に御議論をいただいているということに感謝を申し上げたいと思います。

私から1点だけ、皆さんが議論をするときに考えていただきたいと思うのは、今日、座長の方から話があった国際化が進むとか、若い世代の活躍とか、こういう視点はいいと思いますが、今日もお話がありましたが、私はこの世の中には陰陽とありますが、満ちれば欠ける、日なたがあるのは日陰があるから、国際化というのは、その逆もあって初めてある。

一方だけに偏るのではなくて、これも本日お話のあった見えないところとも関わってくるのかもしれませんが、例えば若い人だけで社会が存在をするわけではないわけです。若い人だって、いつかは歳を取るわけです。すべて物事には表に出ている部分とそうでない部分があって、実はそうでない部分の深みとか、その構造が逆に表に出ていく日の当たる部分を規定している部分もあるのだと思います。

実は日本再生の基本戦略でもデュアルな生き方を提案しているのですが、何か一つこれだというだけではなくて、それと全く逆の部分の深みとかがあって、初めてこちらも光ってくる。そういう視点を持って議論をしていただいて、最後にまとめていただくのは大変かと思いますが、日本再生戦略の方でもそういうイメージで考えていきたいと思っています。都会が繁栄するためには、田舎の方も都会とは全然違う意味での繁栄の仕方がないといけない。田舎が全く廃れてしまって、都会だけが繁栄するというのはあり得ないと思うのです。

また、人もいつも都会にいたいわけではなくて、皆さんもそうだと思いますが、東京も刺激があるのでいいですが、たまには全くひなびたところに行って、そういうのもほっとする。逆に言うと、そういうのがあるからこそ、普段こういうところにもおかしくならぬでいられるというのもあるわけなので、そういうデュアルな生き方やそういうものが共存する、そういう中に

多分幸福というものもあるのではないかと思いますし、実は叡智の部会などで議論をされている部分は、日本の今あるさまざまな文化とか、そういうところの背景には、やはりそういう部分もあるのではないかと考えていますので、是非そういうところをお考えいただきたい。

最終的には意識を変えていくということが非常に大事だと思いますけれども、その意識はなかなか目に見えないもので、それをどう変えるかという、形を変えるというのは意識が変わる大きなきっかけになるのだと思います。ここで皆さんに議論をしていただくことは、特にあまり夢がないか、元気がない若い人たちの意識をどう変えていくかということではないか。

こういう人たちの意識を変えてもらうためにも、ある種こういうふうに変化するということが意識を変えることにつながっていく、そういった視点を持って今の調子で議論を続けていただければ、大変いいものができるのではないかと考えておりますので、お忙しいかと思いますが、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

○大西座長 ありがとうございます。

それでは、今日はこのくらいにしまして、次回は4月2日開催予定ですので、またよろしくお願ひします。

どうも今日はありがとうございました。

(終了時刻 19:36)